

令和5年1月19日(木)、福祉系大学経営者協議会 令和4年度第2回総会をオンラインで開催し、22校34名にご出席いただきました。また、第1部の勉強会には、総会出席者以外にも2大学2名にご出席いただきました。

冒頭、丸山悟会長(日本福祉大学 理事長)より、「本日の総会は、第1部では大阪大学の村上靖彦先生に講演いただき、福経協がこの間一貫して取り上げてきた子育て支援の在り方について、当事者の側から迫ってみたいと考えている。また、第3部の会員校の近況報告では、2つのテーマを参考に、活発な議論をしていただきたい」との開会挨拶がなされた。

※「第1部 勉強会」・「第2部 総会」の進行は丸山悟会長、「第3部 会員校の情報交換」の進行は江端源治副会長(関西福祉科学大学 理事長・学園長)が務めました。

■第1部 勉強会■

大阪大学人間科学研究科 村上靖彦教授より「当事者の声を聴く 大阪市西成区の子育て支援から」と題して、講演いただきました。講演では、西成区の調査や当事者の視点から考える子どもの居場所の重要性やヤングケアラーについて、豊富な具体例をあげながらお話いただきました。その後、出席者との意見交換を行いました。

■第2部 総会■

令和4年度の活動状況について、5つの委員会（総務・企画／研究活動・教育向上／就職／学生募集戦略検討／大規模災害対応）より報告がなされました。

■第3部 会員校の情報交換■

「福祉系の求人がナビサイトなどに掲載されることが増えてきた昨今、内定辞退や併願などについて学生にどのように指導しているか」「社会福祉士養成における新カリキュラム移行後の各会員校の現状と課題」を主なテーマとして出席校の近況報告を行い、続いて、報告された内容について意見交換を行いました。

最後に、長谷川匡俊副会長(大乘淑徳学園 理事長)が、「第1部では、地域に積極的に出ていくソーシャルワーク教育を意識的に行っていくことが大切であると感じた。また、知識あるいは技術を養うことはもちろんだが、それ以上にその当事者の話を聞く共感性が大事であることを改めて認識できたのではないかと。学生の確保には会員校の多くが共通して悩んでいるところであるが、例えば国家試験の合格率が上がることで、多少なりとも募集に追い風が吹くのかどうか。これだけ福祉職の人々が求められている中で養成校どこに問題があるのか、もっと掘り下げる必要があるのではないかと。そういったことも、引き続き会員校で意見交換を行っていきたいと考えている」とのまとめの挨拶がなされ、閉会しました。